JET プログラム

SEA 中間研修を行いました

（一財）自治体国際化協会 JET プログラム事業部

はじめに

JET プログラム事業部では、JET 参加者の業務能力向上のため、毎年各種研修を実施しています。その一つとして、2024 年 11 月 25 日から 27 日まで、SEA（スポーツ国際交流員）を対象とした中間研修を３日間にわたって開催しました。ここでは、本研修で実施した内容をご紹介します。

SEA とは

SEA は、主に地方自治体に配属される特定種目のスポーツの専門家で、地域住民に対するスポーツ指導への協力や、スポーツ事業の企画・立案の補助などを通じて国際交流活動を行います。SEA は、近年全国で 10 人前後と、JET プログラムの他の職種である ALT（外国語指導助手）や CIR（国際交流員）に比べ少人数の職種です。

今回の SEA 中間研修では、タンザニア、アメリカ合衆国、インドネシア、スウェーデン、デンマーク、中国の 10 人の SEA と、３人の任用団体の担当者が東京へ集い、よりスムーズに活動できるよう、業務に役立つ知識を身に付け、互いに交流しながらさまざまな体験を行う３日間となりました。

卓球を指導している様子

自己紹介、デフスポーツ

研修の初日には、SEA の国籍が多様であることから、共通言語である「やさしい日本語」で自己紹介を行いました。来日して間もない SEA もいるなか、互いに日本語で交流するよう努めました。さまざまなスポーツの専門家である SEA の皆さんは、自分の専門分野を紹介する一方で、他の参加者の発表も興味を持って聞き、積極的に質問をしていました。

SEA の自己紹介

デフリンピック大会をテーマにした講義では、講師が手話を使ってデフリンピックやデフスポーツについて説明しました。デフリンピックを今回の研修テーマとした目的は、さまざまな特徴を持つ人へのスポーツの指導にあたって、コミュニケーションの「壁」をどのように乗り越えるかについてデフアスリートからヒントをもらうことにより、スポーツ選手の多様性について理解を深めていただくためです。また、2025 年に東京でデフリンピック大会が開催されることも、研修で取り上げた理由の一つです。研修の前にはデフリンピックを詳しく知らなかった参加者にとって、非常に意義深い講義となりました。「ありがとう」「楽しい」をはじめ、各競技に関する言葉について、簡単な国際手話も学びました。

１日目の最後に、コーチングにおける「チャレンジ」とその対応について意見交換を行い、大人数の場合のトレーニングの組み方などについてもディスカッションしました。

コーチング実演

２日目には、SEA によるスポーツ指導の実演を行いました。参加者同士で、それぞれの専門のスポーツのコーチングを実際に体験し、フィードバックを行うことにより、指導能力の向上を図りました。

フットサルの実践

具体的には、４人の SEA が BumB 東京スポーツ文化館で野球、フットサル、卓球、バドミントンのコーチングをそれぞれ実演しました。各自、専門のスポーツの基礎を紹介してから、実際に英語と日本語で指導を行い、他の参加者はそのスポーツの指導を受ける立場を体験しました。

例として、サッカーを専門とする北海道東川町 SEA のアレックス・リーベスさん（デンマーク出身）はパス、ドリブル、フェイント、シュートなどの練習を実施し、最終的にフットサルのゲームを行いました。

SEA と任用団体の担当者にとって、英語と日本語を使いながらコミュニケーションスキルを伸ばす、絶好の機会となりました。

日本文化体験

３日目には、日本の文化を学ぶ機会として、合気道の創始者、植芝盛平氏が設立した公益財団法人合気会の本部道場で、現代武道である合気道を体験しました。参加者にとっては、なかなか体験することができない貴重な機会となったのではないでしょうか。

合気道は他人と競い合うことではなく、和合の精神を学ぶことができる武道と言われています。そのため、初めて合気道に触れた SEA にとっては、文化的にも大きな発見となりました。

合気道の体験

道場ではまず、合気道の先生から歴史と教えの説明を受け、ストレッチをしてから他の SEA とペアを作り、基本の技を学びました。参加者は合気道について熱心に学び、積極的に実技に参加し、ほかの SEA や担当者、道場の方々と交流しながら、武道への理解を深めました。

合気道の体験

まとめ

それぞれの SEA が本研修の成果を任用先に持ち帰り、より一層力を発揮することが期待されます。

SEA は日々スポーツを通じた国際交流活動に取り組んでいますので、今後もより多くの地方自治体や学校が SEA の活動を知り、興味を持っていただけるよう取り組んでいきます。